

# 富士養鱒場だより

第214号

平成24年5月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji/>

## 就任の御挨拶

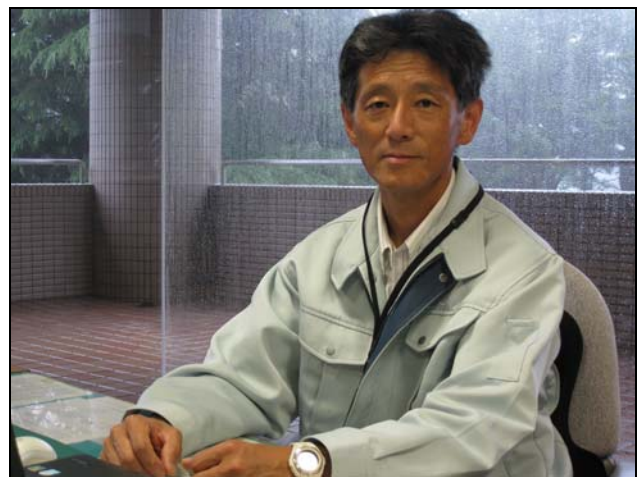
場長 増元英人

このたびの人事異動で田中场長の後を引継ぎ、4月から富士養鱒場長に着任いたしました。初めての勤務地ですが、微力ながらも全力を尽くしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は釣りが趣味で、特に溪流釣りやアユの友釣りが大好きです。釣ることはもちろん、食べることも大好きで、消費拡大や河川漁業の振興といった溪流魚とアユに関わる仕事ができることが大変嬉しく思っております。しかし、私が最も良く釣りに通った、昭和の終わりから平成初期にかけては溪流釣り場もアユ釣り場も大変混雑していて、場所取りも大変だったものですが、最近は遊漁者も減少しており、河川漁業の状況は大きく変わっております。

養鱒業界においても、輸入魚粉高騰の影響による養魚飼料価格の値上がりや、安価な輸入サーモンの増加等による影響でニジマス価格が低迷しています。水産業界に限った話ではないのですが、社会をとりまく情勢は日々変化しており、情勢の変化に応じて業界に求められるものも変わってきます。近年では、水産物においても食品としての安全性が最重要視され、生産者サイドとしても絶対に安全な食品を提供することが求められていました。しかし、現在ではそれを当たり前のこととした上で、さらに商品としての価値の向上や生産コストの削減などが必要となっています。

当场としましては、養鱒業におけるコスト削減対策として、輸入魚粉に替わるタンパク質の探索と有効性についての検討や当场が保有する低魚粉飼料に適応した系統の養殖事業化に向けた試験を行う他、河川漁業においては、縄張性が強いと言われる人工種苗について、放流後の釣獲特性や経



済効果並びに再生産の実態を調査し、人工種苗を用いた漁場管理モデルに取り組んでおります。これらの研究に加え、ニジマスの消費拡大を目指して、新しい消費スタイルの模索や品質管理手法の導入の他、生産者が食品加工、流通、販売まで手がける6次産業化に向けた取り組みを支援していきたいと考えております。

養鱒業などの魚類養殖業の発展、内水面漁業の振興と内水面環境の保全に向けて職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。業務の遂行に当たっては、養鱒業界や河川漁協の皆様との密接な情報交換が必要と考えております。今後とも皆様方の御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



富士養鱒場のマスコット「マスオ君」

# 平成 23 年のサケ科魚類の生産と魚病被害の状況

平成 23 年の静岡県におけるサケ科魚類の生産状況と魚病発生状況がまとまりましたので報告します。

## 方 法

県内でサケ科魚類を養殖している経営体にアンケート票を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量、被害額を調査しました。調査期間は平成 23 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間としました。

## 結 果

### 1 アンケート回答状況

魚種ごとの回答状況を表 1 に示しました。ギンザケとイワナではそれぞれ 100%、これら以外の魚種でも 80%以上の回答が得られました。経営体数はニジマスで 3 軒、アマゴが 2 軒それぞれ減少しました。実経営体数は 40 軒で、前年より 4 軒減少しました。

表 1 アンケート回答状況

魚 種	経営体数	回収数	回収率(%)	経営体数 (22年)
ニジマス	19	17	89	22
ギンザケ	3	3	100	3
アマゴ	27	22	81	29
イワナ	8	8	100	8
その他	6	5	83	7

※その他にはヤマメ、ブラウントラウト、カワマス、オシヨロコマが含まれる

### 2 魚種別生産状況

平成 19 年から 23 年までの生産量の推移を表 2、生産金額の推移を表 3、生産単価の推移を表 4 に示しました。魚種別生産量の合計は 1,663t で平成 22 年と比べ 25t の増加となりました。生産金額は平成 22 年と比べ 2 百万円増加したものの、昨年同様 800 百万円台で過去 10 年間では昨年に次いで低い生産金額となりました。

#### (1) ニジマス

生産量は 1,508t で、平成 22 年と比べ 37t 増加しました。一方、生産金額は 22 年と比べ 21 百万円減少し、販売単価も 25 円/kg 下降しました。

#### (2) ギンザケ・アマゴ・イワナ

ギンザケ、アマゴ、イワナの生産量はそれぞれ 46t、57t、48t、生産金額は 45 百万円、78 百万円、45 百万円でした。平成 22 年と比べるとギンザケ、アマゴでは生産量、生産金額ともに増加しました。一方、イワナでは生産量、生産金額ともに減少し、過去 5 年間で最も生産量の多かった平成 21 年の 1/3 となりました。また販売単価はアマゴ、イワナでは上昇し、ギンザケでは下降しました。

表 2 魚種別・年別生産量(t)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合 計
H19	1,778	63	37	72	34	1,984
H20	1,623	15	35	92	34	1,799
H21	1,757	21	32	124	22	1,955
H22	1,471	41	37	68	21	1,638
H23	1,508	46	57	48	5	1,663

表 3 魚種別・年別生産金額 (百万円)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合 計
H19	906	50	46	55	28	1,086
H20	806	24	47	70	22	969
H21	849	31	51	93	16	1,039
H22	687	44	45	51	11	838
H23	666	45	78	45	6	840

表 4 魚種別・年別販売単価 (円/kg)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	全 体
H19	510	798	1,255	766	547
H20	496	1,655	1,355	760	538
H21	483	1,471	1,601	749	532
H22	467	1,071	1,231	750	511
H23	442	986	1,370	931	505

### 3 魚種別魚病被害状況

平成 19 年から 23 年までの魚病被害量を表 5、被害金額を表 6、平成 22 年と 23 年の魚種別、疾病別の被害状況を表 7 及び 8 に示しました。総被害量は 96.1t、総被害金額は 62,729 千円で、22 年と比べてそれぞれ 20.4t、21,072 千円減少しました。生産量に対する被害量の割合は 5.8%、生産金額に対する被害金額の割合は 7.5%でした。

#### (1) ニジマス

平成 23 年の被害量は 92.4t、被害金額は 57,756 千円でした。平成 22 年と比べ、被害量は 14.8t、

被害金額は 17,455 千円それぞれ減少しました。疾病別ではビブリオ病の被害量が多く昨年の約 4 倍であり、ビブリオ病不活化ワクチンを使用していない業者で発生が見られました。次いでミズカビ病、レンサ球菌症、IHN の被害量が多くありました。

(2) ギンザケ・アマゴ・イワナ

ギンザケ、アマゴ、イワナの被害量はそれぞれ 1.1t、2.4t、0.2t、被害金額は 850 千円、3,228 千円、895 千円でした。平成 22 年と比べるとアマゴでは被害量、被害金額ともに増加、ギンザケ、イワナではともに減少しました。疾病別に見ると、ギンザケでは EIBS、アマゴではレンサ球菌症の被害が見られました。

(松山 創)

表 7 魚種別・疾病別被害量(kg)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
IPN	2,012	0	0	0	2,012
	0	0	0	0	0
IHN	11,069	300	0	0	11,369
	18,510	0	0	0	18,510
OMVD	0	0	0	0	0
(ヘルペスウイルス症)	3,000	1,000	0	0	4,000
EIBS	0	800	0	0	800
	0	3,050	0	0	3,050
ビブリオ病	17,386	0	0	0	17,386
	4,500	0	0	0	4,500
せつそう病	335	0	368	100	803
	0	0	1,200	2,600	3,800
冷水病	715	0	147	0	862
	2,430	0	0	100	2,530
レンサ球菌症	11,959	0	1,227	0	13,186
	13,700	0	0	0	13,700
細菌性鰓病	2,012	0	0	0	2,012
	12,100	0	0	200	12,300
白点病	0	0	123	0	123
	0	0	20	0	20
ウチホス症	0	0	0	0	0
	4,000	0	0	0	4,000
ミズカビ病	15,982	0	123	50	16,155
	20,000	0	450	0	20,450
その他	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
不明	30,512	0	430	0	30,942
	29,000	0	650	0	29,650
ガス病	391	0	0	50	441
	0	0	0	0	0
合計	92,374	1,100	2,418	200	96,092
	107,240	4,050	2,320	2,900	116,510

上段：平成23年  
下段：平成22年

表 5 魚病被害量

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H19	176.4	2.0	1.4	6.7	186.4
	9.9	3.2	3.7	9.2	9.4
H20	117.7	0.5	3.7	5.7	127.6
	7.3	3.4	10.6	6.2	7.1
H21	119.2	0.0	1.5	1.5	122.2
	6.8	0.0	4.6	1.2	6.3
H22	107.2	4.1	2.3	2.9	116.5
	7.3	9.9	6.3	4.3	7.1
H23	92.4	1.1	2.4	0.2	96.1
	6.1	2.4	4.2	0.4	5.8

上段：被害量(t)  
下段：生産量に対する割合(%)

表 6 魚病被害金額

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H19	122,135	800	2,167	4,459	129,561
	13.5	1.6	4.7	8.1	11.9
H20	75,659	500	3,906	4,240	84,305
	9.4	2.1	8.3	6.0	8.7
H21	57,803	0	2,051	1,410	61,264
	6.8	0.0	4.0	1.5	5.9
H22	75,211	2,625	2,245	3,720	83,801
	11.0	6.0	5.0	7.3	10.0
H23	57,756	850	3,228	895	62,729
	8.7	1.9	4.1	2.0	7.5

上段：被害金額(千円)  
下段：生産金額に対する割合(%)

表 8 魚種別・疾病別被害金額(千円)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
IPN	2,012	0	0	0	2,012
	0	0	0	0	0
IHN	14,414	300	0	0	14,714
	26,115	0	0	0	26,115
OMVD	0	0	0	0	0
(ヘルペスウイルス症)	2,000	500	0	0	2,500
EIBS	0	550	0	0	550
	0	2,125	0	0	2,125
ビブリオ病	9,727	0	0	0	9,727
	6,000	0	0	0	6,000
せつそう病	168	0	589	800	1,557
	0	0	1,067	2,500	3,567
冷水病	2,135	0	196	0	2,331
	6,306	0	0	1,000	7,306
レンサ球菌症	7,365	0	1,841	0	9,206
	5,520	0	0	0	5,520
細菌性鰓病	1,006	0	0	0	1,006
	6,760	0	0	220	6,980
白点病	0	0	37	0	37
	0	0	50	0	50
ウチホス症	0	0	0	0	0
	3,900	0	0	0	3,900
ミズカビ病	9,155	0	98	40	9,293
	4,500	0	228	0	4,728
その他	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
不明	11,473	0	466	0	11,939
	14,110	0	900	0	15,010
ガス病	302	0	0	55	357
	0	0	0	0	0
合計	57,756	850	3,228	895	62,729
	75,211	2,625	2,245	3,720	83,801

上段：平成23年  
下段：平成22年

# 静岡県下におけるアユの天然遡上と種苗放流の現状

アユ釣り遊漁者の満足度は“数釣り”にあることが分かってきました（本誌 213 号）。数釣りを可能とするためには、河川内にアユが居ることが必要不可欠で、天然種苗を増やすことのほか、人工種苗を上手に利用することが重要です。今回は、その基礎となるべき情報、すなわち天然遡上と種苗放流の現状について報告します。調査に御協力頂いた関係皆様方に感謝いたします。

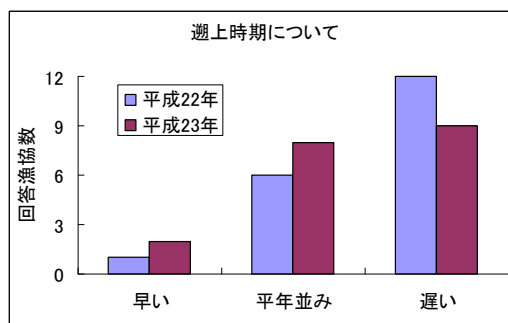
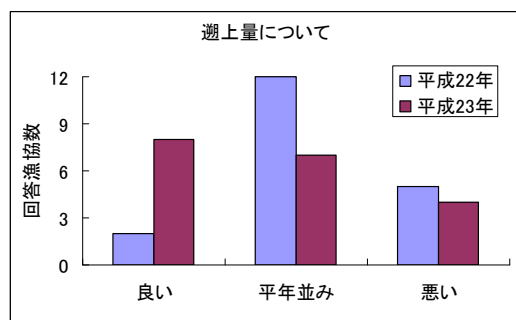
## 方 法

平成 22 年と平成 23 年のそれぞれ 12 月に、アユを漁業権とする 23 漁協（平成 23 年は 22 漁協）に対し、天然遡上の有無とその年の遡上状況、由来別の種苗放流量と平均体重に関するアンケート調査を行いました。

## 結 果

### 1 天然種苗の遡上状況

23 漁協中 19 漁協で、天然種苗が遡上していました。遡上状況については、遡上量は例年並み～良いとの回答が多くありましたが、遡上時期は遅いとの回答が目立ちました。



### 2 種苗の放流状況

平成 22 年と平成 23 年を比較すると、放流量は約 40 トンと約 43 トンでほぼ同量でしたが、平均体重から推定した放流尾数は 552 万尾と 464 万尾で大きな開きがありました。平成 22 年は駿河湾海産の平均体重が 5.8g と小さく、これにより放流尾数が増えていました。したがって、由来別の放流尾数の割合も両年で大きく異なり、人工産では 32% と 51% でした。

平均体重については、天竜川と大井川河口で採取される河口産が 3g 未満と最も小さく、駿河湾海産、人工産、琵琶湖産、浜名湖産の順に大きくなっていました。

## まとめ

今回の調査により、天然種苗の遡上時期の遅れや由来別放流尾数などを明らかにすることができました。全体の種苗放流量は、静岡県内水面漁場管理委員会の指示による目標増殖量 27 トンを大きく上回っていましたが、近年は放流行為が形骸化しているとの声も聞こえてきます。今一度、各種苗の効率的な利用、禁漁区や禁漁期の設定など、河川の生産力や特長を最大限に引き出す方策の再検討をお願いします。（鈴木邦弘）

年	項目 (単位)	人工産	海産系種苗				不明	合計
			河口産	駿河湾海産	浜名湖産	琵琶湖産		
平成22年	放流量 (kg)	20,061	2,666	15,124	2,100	200	40,150	
	平均重量 (g)	11.4	2.6	5.8	18.0	10.0	7.3	
	尾数 (万尾)	176.3 (32%)	100.7 (18%)	261.5 (47%)	11.7 (2%)	2.0 (0%)	552.1 (100%)	
平成23年	放流量 (kg)	26,115	3,643	9,944	2,384	400	42,536	
	平均重量 (g)	10.9	2.9	11.1	30.0	12.1	9.2	
	尾数 (万尾)	238.7 (51%)	124.2 (27%)	89.3 (19%)	7.9 (2%)	3.3 (1%)	463.6 (100%)	



# トピックス

## 富士養鱒場のホームページをリニューアルしました

利用者の皆さんにとって見やすい、わかりやすい、使いやすいホームページを目指して、平成24年4月1日に当場のホームページをリニューアルしました。デザインを水産技術研究所、浜名湖分場と統一し、読みやすい文字の大きさ、色に配慮したレイアウトにしました(伊豆分場も実施予定)。また、知りたい情報に早く、簡単にたどり着き、ホームページ内をスムーズに回遊できる共通メニューをホームページ上部に設置しました。

また、ホームページが新しくなったことに伴い、トップページをはじめ各ページのアドレスが変わっています。「お気に入り」や「ブックマーク」に登録している方は、登録の変更をお願いします。今後も、より使いやすく見やすいホームページになるよう改善してまいりますので、よろしく願いいたします。(松山 創)

富士養鱒場ホームページアドレス：  
<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji/>



## 第23回にじます祭が開催されました

平成24年3月4日に、富士山本宮浅間大社内の神田川ふれあい広場で、にじます祭が開催されました。富士宮市の魚でもあるニジマスにより親しんで食べてもらうことを目的に、毎年開催しているもので、第20回からは富士宮ますつり大会と同時に開催しています。

今年の目玉は何と言っても「湧幻鱒」の展示と体重当てクイズでした。湧幻鱒は、平成24年2月に発表されたばかりの富士宮にじますのトップブランド(本誌213号参照)で、市民に対し現物がお披露目されたのは初めてでした。生きたままの展示ができずに残念でしたが、あまりの大きさに驚嘆する声も聞こえてきました。

ニジマスに親しんでもらうアトラクションとしては、地元小学生による「ヘルシーニジマスくん」の歌と踊り、市長らによる記念放流、「育て鱒ター」による稚魚放流、つかみ取りなどが行われました。丹精込めて育てた稚魚をペットボトルなどに入れて、会場内で自慢げに持ち歩く「育て鱒ター」の姿が印象的でした。また、試食販売では、「にじますフライ」「にじますコロッケ」「むすび鱒」「餃

THE 鱒」など、多くの開発商品が来場者の胃袋を満たしていました。

富士養鱒場からは、ニジマスの生態展示とパネル展示を行い、来場者の質問に答える場面が多くなりました。

終盤には、小雨もばらつく生憎の天気でしたが、今年も多くの方にご来場いただき、ニジマスの生産、加工、販売、消費が一体となっていることを感じることができました。今から、来年のイベントが楽しみです。(鈴木邦弘)



## イオン富士宮店でにじますPRを行いました

にじます祭りが開催された平成24年3月4日に、会場近くのイオン富士宮店においてニジマスのPRを行いました。県水産振興課所管事業である「ふじのくに水産物PR事業」を活用して、ニジマスの鮮魚販売、ニジマスを使用した料理の店頭調理、試食、レシピの配布を行いました。鮮魚はニジマス(100g)を1尾そのままと3枚に卸したものの、大型魚の切り身を販売しました。試食は、店頭でホットプレートを用いて調理した「ますのコンポタマヨソース」を520食提供し、「ますのコンポタマヨソース」と「マスピザ」のレシピをそれぞれ400枚以上配布しました。試食は大人、子供ともに好評で、レシピとともにニジマスを購入し家で作ってみたいとの意見も聞かれました。

また、試食者を対象に、希望する販売形態について聞き取り調査を行ったところ、ニジマス購入者では「フィレー」または「1尾そのまま」、非購入者では「刺身」、「フィレー」なら購入してもよいとの意見が多く聞かれました。また、「1尾そのまま」という回答者も内臓等は出してくれるのが条件という意見が大半を占めました。これらのことから、最低限内臓を出す等、加工されたものが

消費者に望まれていると思われました。今後もニジマスをおいしく食べていただけるような様々なPRを行っていききたいと思います。(松山 創)



## 太田川漁協で研修会を開催しました

3月11日に行われた太田川漁協総代会において、漁協組合員を対象にした研修会の講師を勤めました。演題は、「人工種苗を利用したアユ漁場管理」と「濁水がアユに及ぼす影響」の2題です。

「人工種苗を利用したアユ漁場管理」では、放流した人工種苗は解禁当初の釣果に大きく貢献することなど、これまでのアユ研究で明らかになったことを中心に話題提供しました。

「濁水がアユに及ぼす影響」では、濁りがアユの成長阻害や行動制限を引き起こすことなどを話題提供しました。現在、太田川ダムをアユの育成場として利用する計画が進められていますが、ダム湖の濁りが懸念材料となっています。濁りが改善し、アユをはじめ、多くの生き物が

成育できる環境に近付くことを祈るばかりです。

今後もこうした研修会を通じて、研究成果の報告や意見交換を積極的に行っていききたいと思います。(鈴木勇己・鈴木邦弘)



## 人事異動

(転出)	場 長 田中 眞	→	水産技術研究所 研究統括監
	主 任 新貝高史	→	経営管理部法務文書課 主任
(転入)	場 長 増元英人	←	経済産業部水産振興課 水産振興班長
	主 任 鈴木大樹	←	富士財務事務所 主任

## 業務紹介

24年度の人事異動に伴い、当场では下記のように今年度もよろしく申し上げます。  
 に新たな体制で業務に取り組んでおりますので、 (川合範明)

担当業務	主任	副主任
1 富士養鱒場業務の総括に関する事	増元	
2 予算・庶務及び観覧業務に関する事	鈴木(大)	川合
3 試験研究の企画調整に関する事	川合	鈴木(勇)
4 ニジマス養殖に関する事 (1) 低魚粉飼料開発に関する事 (2) 低魚粉飼料に適したニジマスの開発に関する事 (3) 品種改良に関する事	川合 川合 川合 鈴木(勇)	鈴木(勇) 鈴木(勇) 鈴木(勇)・渡辺 川合・渡辺
5 全国協議会に関する事 (1) 湖沼河川養殖研究会事務局に関する事 (2) 養鱒技術協議会連絡試験に関する事	川合 川合 鈴木(勇)	鈴木(勇) 鈴木(勇) 川合
6 その他の冷水性淡水魚類養殖に関する事	川合	鈴木(邦)・渡辺・植松
7 アユ漁場の効率的利用に関する事 (1) 放流種苗の判別に関する事 (2) 人工種苗の資源生態特性に関する事 (3) 人工種苗の繁殖生態に関する事	鈴木(勇) 鈴木(勇) 鈴木(勇) 鈴木(勇)	川合 川合 川合 川合
8 内水面漁業・内水面環境に関する事	鈴木(勇)	川合
9 普及指導の企画・推進に関する事	松山	鈴木(邦)
10 担い手の育成と確保に関する事 (1) 水産技術・経営の改善に関する事 (2) 後継者育成に関する事 (3) 沿岸漁業改善資金に関する事	鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 松山	松山 松山 松山 鈴木(邦)
11 地域水産業の振興に関する事 (1) 養鱒業に関する事 (2) 海産魚類養殖業に関する事 (3) その他の魚病対策に関する事 (4) 生産業務指導に関する事 (5) 内水面漁業に関する事	松山 松山 松山 松山 鈴木(邦) 鈴木(邦)	鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 松山 松山
12 水産技術情報の発信に関する事 (1) ホームページに関する事 (2) 広報誌に関する事 (3) 講習会・研修会の開催に関する事 (4) 展示室の管理に関する事 (5) その他の技術広報に関する事	鈴木(邦) 松山 鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 松山	松山 鈴木(邦) 松山 松山 植松 鈴木(邦)
13 その他普及事項に関する事	松山	鈴木(邦)

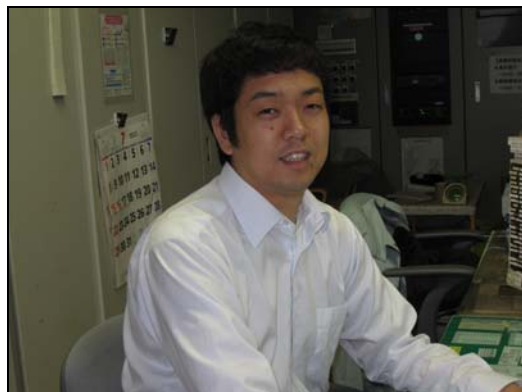


## 転入者自己紹介

はじめまして。富士財務事務所から異動してまいりました鈴木大樹（だいじゅ）です。こちらでは総務事務担当を担当することになりました。

富士宮で育ちましたが、養鱒場や鱒については知らないことばかりです。皆様に教えていただきながら、知識をもっと深めていきたいと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。



## 富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) : mm (日)		湧水量 : 万 t / 日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
2	194 ( 9)	82 ( 6)	4.36	2.88
3	184 (12)	196 ( 9)	5.51	3.11
4	305 (12)	216 ( 9)	6.37	4.10

\* 前年以前の20年間平均値

## 日誌

2月	3月	4月
2日 全国湖沼河川養殖研究会理事会 (東京)	4日 第23回にじます祭り	11日 海面養殖トナドソニジマス試食会
3日 漁業士会総会 (伊豆長岡)	4日 イオン富士宮店ニジマスPR	13日 温水ヒラメVNN検査
6日 岳南地域地下水対策協議会	6日 研究課題評価部会 (焼津)	17日 ニジマス販売状況調査 (市内)
15日 にじます祭実行委員会	7日 全国湖沼河川養殖研究会監査 (浜松)	18日 湧幻鱒打合せ
16日 6次産業化『食の都』づくりふじのくに県民の集い (静岡)	9日 魚病対策委員会技術部会 (静岡)	20日 漁業士会役員会 (静岡)
20~21日 競争的資金安全安心マス類生産技術開発報告会 (栃木県日光)	11日 太田川漁協研修会 (森)	22日 太田川ダムヒメマス放流 (森)
21日 海面養殖現場見学会 (内浦)	13日 普及課題成果報告会 (焼津)	24日 内漁連研修会 (天竜川漁協)
24日 富士宮市知財発表会	16日 全国養殖衛生推進会議 (東京)	25日 水産金融担当者会議 (静岡)
28日 アユ資源研究部会 (東京)	19日 魚病対策委員会委員会 (静岡)	25日 6次産業化担当者会議 (静岡)
	21日 虹の里生産業務連絡協議会	26日 県かん水養魚協会役員会 (内浦)
	22日 普及課題設定協議会 (焼津)	27日 水産事業概要説明会 (静岡)
	26日 岳南地域地下水対策協議会	
	27日 水産学会口頭発表 (東京)	
<視察見学対応>	<視察見学対応>	
7日 貴船小学校 (3年生 87名)	18日 静岡県文化財団 (45名)	
14日 富士根南小学校 (3年生 204名)		